

平成 30 年 8 月 3 日（金）  
 いわき農林事務所農業振興普及部

平成 30 年度いわき地方における高温・少雨に関する技術対策

1 作物

(1) 各品種の出穂期（※出穂期とはほ場の 50%以上が出穂した状態）

| 品種    | 地域 | 田植え<br>(月日) | 出穂期<br>(月日) | 茎数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 葉色<br>(SPAD502) |
|-------|----|-------------|-------------|---------------------------|-----------------|
| コシヒカリ | 勿来 | 5月 5日       | 8月 2日       | 5 3 3                     | 25~30           |
| コシヒカリ | 平  | 5月 20日      | 8月 7日       | 4 1 1                     | 目安：30           |
| 天のつぶ  | 四倉 | 5月 10日      | 7月 28日      | 4 4 9                     | 30~35           |
| 天のつぶ  | 勿来 | 5月 20日      | 8月 5日       | 5 4 7                     | 目安：35           |
| ひとめぼれ | 遠野 | 5月 1日       | 7月 21日      | 5 5 6                     | 30~35           |
| ひとめぼれ | 三和 | 5月 15日      | 7月 28日      | 4 4 6                     | 目安：35           |
| 里山のつぶ | 三和 | 5月 15日      | 7月 26日      | 4 1 9                     | 30~35<br>目安：35  |

(2) 各品種の刈取適期

| 品種    | 出穂日    | 適期刈取日※1 | 積算到達気温 | アメダス |
|-------|--------|---------|--------|------|
| コシヒカリ | 8月 1日  | 9月 16日  | 1100°C | 小名浜  |
| コシヒカリ | 8月 5日  | 9月 21日  |        |      |
| 天のつぶ  | 7月 25日 | 9月 6日   | 1050°C |      |
| 天のつぶ  | 8月 1日  | 9月 14日  |        |      |
| ひとめぼれ | 7月 25日 | 9月 6日   | 1000°C | 小野新町 |
| ひとめぼれ | 8月 1日  | 9月 15日  |        |      |
| 里山のつぶ | 7月 25日 | 9月 9日   | 1050°C |      |
| 里山のつぶ | 8月 1日  | 9月 17日  |        |      |

※1：～7月30日：アメダス実測値、以降アメダス平年値。

(3) 今後の水管理

水田の水温が上昇し、根の活力を低下させると、登熟に影響を及ぼすため、根圏部の地温を下げる対策が必要である。

【用水が十分に確保出来る場合：掛け流し灌漑】

水温だけでなく、地温を下げる効果が期待できる。

【用水が十分に確保出来ない場合：昼間湛水－夜間落水】

「間断灌漑」に比べると、1～2°C程度地温を低下出来る。

2 野菜

(1) ねぎ

アザミウマ類が多発しているため、発生程度を確認し、被害が著しい場合は防除を実施しましょう。

無理な土寄せは極力避けましょう。ただし、どうしても必要な場合は少量の土寄

平成 30 年 8 月 3 日（金）  
いわき農林事務所農業振興普及部

せとし、片畦ずつ行うなど、根を傷めないような方法とします。

(2) いちご

ハダニ等の害虫や炭そ病が多発しやすいため、早めに防除しましょう。

苗のかん水は水量や回数を調整し、日中の乾燥に注意しながら、夕方にはクラウドファンや鉢表面が乾く程度としましょう。また、育苗ハウスを遮光し、苗の温度上昇を抑制します。

(3) さやいんげん、トマト

障害果、不良莢、老化葉、被害葉を早めに摘除し草勢維持を図りましょう。また、少しでも乾燥を防ぐため敷きわらを厚くし、可能であれば早朝にかん水を行いましょ

(4) 養液栽培

チラーで液温の上昇を抑制すると共に、適宜養液交換を行い腐敗の防止にも努めましょ

廃液量をチェックし、不足にならないように給液量を調整しましょう。

暑い時間帯は遮光幕を展張したり遮熱資材を活用したりすることで根圏の温度上昇を抑制しましょう。また、ヒートポンプを所有している場合は夜間温度を極力下げ、草勢の維持に努めましょ

3 果樹

(1) 日本なし

果実肥大を促進させるために、マグネシウムを含む窒素肥料の葉面散布を行いましょ

水分の消費を少しでも抑えるため、徒長枝などの不要な枝は剪除ましょ

ハダニ類が多発しているため、殺ダニ剤の散布を励行ましょ

(2) いちじく

樹体下段の早期に成熟した果実は早めの収穫を心掛け、樹体内の水分競合を防ぎましょ

4 花き

(1) 切り花全般

できる限り植物が適正な生育を確保できる環境を整え、日持ちの良い切り花生産を心掛けましょ

高温・乾燥によるストレスは、光合成量の低下と呼吸量の増大により光合成産物が減少し、茎の伸長不足や切り花の軟弱化などを招きます。  
収穫は極力涼しい時間帯（朝方、夕方）とし、その後は直ちに水揚げを行いましょ

日中の収穫や、早朝に収穫してしばらく給水させない場合は切り花の蒸散が活発なため、萎れ易く日持ちに影響します。  
平年より高温のため、通常以上に切り花の収穫・調製に注意ましょ

平成 30 年 8 月 3 日（金）  
いわき農林事務所農業振興普及部

(2) 露地キク

田んぼでの作付けでは、可能な限り定期的な通路かん水を実施しましょう。

畑地での作付けでは、可能な限り株元への少量多回数かん水などの対応を実施しましょう。

今後さらに高温が続くと、彼岸以降の品種では発蕾後の花芽発達の遅れから開花遅延が懸念されるため、生育状況と出荷の見込みを市場等へ情報提供しましょう。

(3) リンドウ

品種の早晚生や定植年、収穫の有無に関わらず、通路かん水を定期的に実施しましょう。期間は5日から7日程度の間隔を目安とし、作土表面や内部の乾き具合を確認してください。

中生品種までは開花の前進化が見込まれるため、収穫作業の遅れに注意すると共に、市場等への情報提供も行いましょう。

(4) トルコギキョウ

これから開花に向かう作型（抑制栽培など）において遮光をする場合には、処理期間は定植時から発蕾 15 日後までを上限とし、遮光率 30%程度の資材を用いてください。（福島県農業総合センター H24 実用化技術情報）

5 畜産

(1) 飼料作物

適期収穫に努めましょう。また、牧草収穫後の追肥は、肥効が確保できるよう高温時や雨の少ない時期を避けましょう。

飼料用トウモロコシでは、葉のしおれや枯れた症状が見られ、回復が見込めない場合には、早めに収穫調製しましょう。

(2) 家畜・家禽の暑熱対策

家畜の姿勢、採食量や反芻行動など家畜の行動を良く確認し、異常家畜の早期発見・早期治療に努めましょう。

ア 畜舎内を清潔に保ちましょう。

イ 家畜をよく観察し、特に暑熱のダメージが大きい家畜については、畜体へ直接水をかけるなどの応急措置を行いましょう。

ウ 家畜に直接風を当て、家畜の体感温度の低下に努めましょう。

エ 給水施設を清潔に保ちましょう。

オ 良質な飼料を給与しましょう。

カ 飼槽は清潔に保ちましょう。

キ 固形ミネラル塩や主要ミネラル類をやや多めに補給しましょう。